

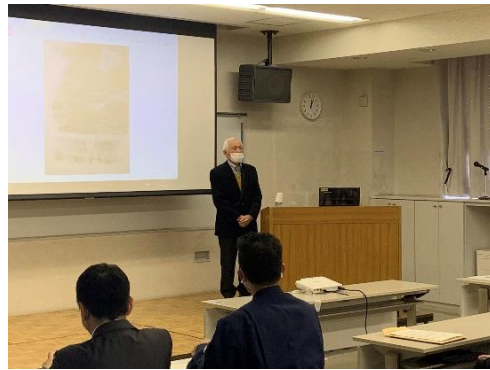
開催地名：北海道苫小牧市	
開催日時	令和4年11月6日（日） 13：00 ～ 14：30
開催場所	苫小牧市文化交流センター（アイビープラザ）
語り部	大河内 喜男 （福島県いわき市）
参加者	苫小牧市民 56名
開催経緯	<p>当市では東日本大震災を教訓に、北海道が太平洋沿岸について最大クラスの津波を想定した「津波浸水予測図」を作成し、それをもとに「苫小牧市津波ハザードマップ」を平成25年に策定するとともに、防災訓練と併せて地域の防災力の強化や防災意識の向上を図ってきた。今後地域防災計画やハザードマップなどの修正が必要となるが、過去に大規模で広域な津波災害の経験がないことから、東日本大震災を経験した語り部を介して、大震災の教訓を風化させることなく苫小牧市民全般に災害伝承することが急務となっている。</p>
内容	<p>（１）はじめに</p> <p>東北地方太平洋沖地震が発生した2011年3月11日の午後、私は内陸部にある病院の待合室にいた。いわき市では震度6弱の揺れを観測した。すぐに車で自宅に向かったが、あと2キロの所で道路が陥没していて立ち往生し、ようやく自宅付近にたどり着いた時には、すでに大津波が来た後だった。</p> <p>いわき市では過去数百年の間、大きな津波被害を受けた具体的な記録が残っていない。また、今生活している私たちにも津波被害の経験がないため、市民の間では津波に対する警戒意識がほとんどなく、津波の被害を受けるとは誰もが考えていなかった。そのため、東北地方太平洋沖地震の際も、すぐに避難所に向かう人は少数で、海を見に来ていた人が大勢津波の犠牲になってしまった。</p> <p>（２）災害に対する心構え</p> <p>身の回りで災害が起こった時、どれだけ安全な行動がとれるかが命を守れるかどうかのターニングポイントとなる。実際に災害に直面すると、多く的人是はパニックとなり、どうしていいかわからなくなってしまう。家族がいれば、その安否も気になるのは当然であるが、一番大事なことは、何があっても一人一人が自分の命を守るということである。自分の命を守ること、生き抜くことが最優先される。日頃から災害に対する意識を持ち、備えをしておくことが重要である。</p> <p>ハザードマップや避難所については、書類等で確認するだけでは自分の命を守ることはできない。地震だけでなく、現在全国で発生している様々な災害から身を守るには、避難所はどこにあるのか、そこに行くルートはどうなっているのか、周辺に危険な箇所はないか等について、自分の目で確かめることが大切だ。この行為が安全なまちづくりにつながるので、是非家族と一緒に取り組んでいただきたいと思う。また、2、3日しのげる食料を準備しておくことや、その他各々の必需品を準備しておくことが必要だろう。</p> <p>（３）避難所の状況</p>

大きな災害が発生すると、避難所が開設される。東日本大震災時には市内の各所に避難所が開設され、私の避難所生活は2か月半に及んだ。避難所生活で一番の課題はトイレの問題である。避難所によっては数百人以上の人々が、数時間の利用ではなく、数か月以上も滞在するので、足りない上に使用頻度は極めて高く、清掃や廃棄等が追い付かず、すぐに使用できなくなってしまう。もちろん手分けして頻繁に清掃や廃棄等の対応をするべきなのだが、なかなか難しい問題だ。少しでも改善するには、簡易トイレなどを準備して、なるべく使用を分散させるしかない。避難してきた人たちがいかに協力しあえるかがポイントになるが、町内会や自主防災会の役員だけでなく、避難してきた住民も巻き込んで運営していくのが理想だと考える。

また、避難生活が長期化するといろいろなストレスがたまる。原発のある県内の他の自治体から、約5万人の人々がいわき市に避難してきたことで、市内の幹線道路の渋滞、病院・スーパーの混雑、他県もしくは外国人の窃盗団による盗難被害等、想定していないことが次々と起こった。平常時では考えられないことだが、避難所内では支援物資の奪い合い等も実際に起こった。

(4) さいごに

津波で多くの人々が亡くなったことと併せて、原発の風評被害も深刻な問題だ。今なお福島県産の海産物は元の漁獲量に達していないし、値段も安い。震災後しばらくは、全国各地に避難した福島県民が、いろいろな嫌がらせを受けて傷ついた。私の居住地の子供たちの数は、震災前の6割程度までしか回復していないし、住民も3割程度減少してしまった。原発のある自治体は、住民に対して放射能についての最低限の教育及び情報提供が必要だと思う。



開催地より

東日本大震災の被災体験談と災害教訓について、具体的なお話を織り交ぜてお話しただいた。改めて災害に対するイメージを強く認識することができたと思う。今後本市としては、語り部の経験を参考にした防災出前講座の実施、個人備蓄の呼びかけ、津波災害時の早期避難の啓発に取り組んでいきたいと思う。